

美濃陶芸協会の創立60周年を鏡開きで祝う関係者
＝多治見市新町、市産業文化センター



美濃陶芸協会 60周年祝う

多治見市「意欲的な作品を追求」

美濃陶芸協会の創立60周年記念式典が10日、多治見市新町の市産業文化センターで開かれた。安藤工会長は「会員が己を高め、未来に向けた清新で意欲的な作品を追求することで、創設の精神を受け継ぎ、次代へ受け渡すという責務を果たしていきたい」と誓った。協会は1963年に発足し、現在の会員数は53人。式典には会員や賛助会員、行政、各種団体から172人が出席した。式典では協会の事業に多大な支援をしてきたとして東濃信用金

庫、加藤智子氏、伊藤青少年育成奨学会など個人・団体4件に感謝状を贈った。

安藤会長は「美濃陶芸は日本人の持つ優れた感性に支えられ、独自の発展を遂げてきた世界に誇れる焼き物。発展に向け先輩諸兄が研さんを重ねた60年の歴史に改めて敬意を表したい」とし、「環境の変化、新しい価値観の出現など時代の

変化に会員も、協会も適応し、さらに進化していかなければならない」と語った。

来賓の高木貴行多治見市長、田代正美多治見商工会議所会頭、日本芸術院会員の彫刻家神戸峰男氏が祝辞を述べた。懇親会では歴代会長らが加わり鏡開きを行い、杉山幹夫岐阜新聞社最高顧問の発声で乾杯した。

(小森直人)